

感覚と知覚の間、脳と意識の間
—— 心脳問題が科学的に解明できない理由^{おけ} ——

客員教授 梅 田 徹

<要旨>

「意識は最大の謎」であり続けている。とりわけ、意識と脳との関係は科学的に解明されていない。報告者は、「心脳問題」は、意識と脳の関係だけでなく、感覚と知覚の关系到まで及ぶ性質をもつものであると捉え、感覚と知覚の間にもおいてもまた、乗り越えられない課題があると主張し、その理由を説明するための枠組みを提示した。チャーマーズの「情報の二相理論」を発展させ、感覚から知覚にかけて経由する間に、三人称的に表現可能な外因的な情報が、一人称的にしか表現できない内因的な情報に変換されると仮定する。物理学のデータは前者の、また、精神に関する心理学のデータは後者の特性を持つ。三人称的に表現できないことは科学の限界を示すものである。その科学が入り込めない分野にその問題の一部がかかっているのが「心脳問題」である。